

海の事典 7章「夢のある魅力的な海」

日本(人)としての海の捉え、考え

→より多くの子供達、人々に触れてもらい、関心を持ってもらう

→人材育成はその先にある

学生、人材は「どこ」から来るのか
年齢層、セクターをどこに設定しているか

日本は全国各地で、学校・地域に見合った取組みがされている

日本・アジア・世界と学びの内容の「繋がり」まで含めて行われているものは少ない

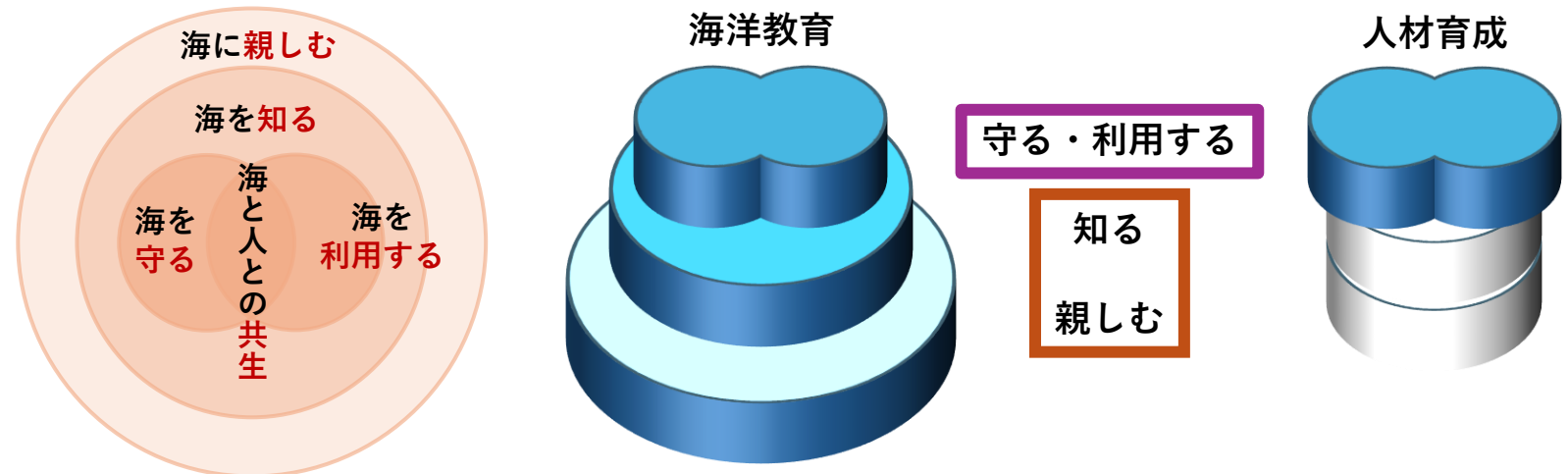
高校に辿り着く前に海に対する目を養わなければ、進学・進路に海が選択肢として含まれにくい

海の近くで、暮らしに結び付いた子供達ならまだしも、内陸・都心では日頃から海を見ない

学校・地域と海との距離感

目線が届く距離（≡関心の範囲）

内陸は海に対する関心が薄れがち



BBNJまもなく発効、WOA-IIIの公表間近

WOA-II Chap.7N: Open Sea

「公海の生態系やそこでの生物多様性に対する物理的要因の影響について、殆ど知られていない」

EEZの外は一般人にどれだけ意識・理解されているのか

海はひとつなぎの存在として理解されるべき ⇒ 海洋リテラシー普及

→ 元はアメリカの科学教育に海の要素を取り入れる目的で発案
7つの重要原理 (Essential Principles) と45の基本概念
(Fundamental Concepts) で構成

IOC-UNESCO、WESTPAC、APEC

学校での学びに対するFramework、Networkの持つ意味

日本では、世界で議論されているような政府省庁主導の海洋リテラシー普及活動は難しい

→ Blue School Networkへの参入
ESDの一環として海洋リテラシーの導入
(IOC-UNESCO, 2023)

学びの内容、様々な繋がり方に政策・歴史・文化の影響

学習指導要領では「育成すべき資質・能力」を重視

次期：多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに

「社会全体の構造変化を踏まえて具現化する」「社会に開かれた教育課程」

地球人として国際社会の構造を意識する必要は？

海洋リテラシーの重要原理

1. 地球には、多くの特徴を持つひとつの大きな海洋がある。
2. 海洋と、海洋中の生命が、地球の特徴を形作る。
3. 海洋は天候と気候に大きな影響を与えている。
4. 海洋によって、地球は生物が生息できる場所になっている。
5. 海洋は、素晴らしい生命の多様性と生態系を支えている。
6. 海洋と人間は、互いに分かちがたい関係にある。
7. 海洋は、今もなお大部分が探求されていない。